

はだ はちまんぐうぶんこ
「羽田八幡宮文庫」の設立者に関する史料（古文書、桜田門外の変などを記した書簡等）が寄附されました。6/10（土）から速報展示！

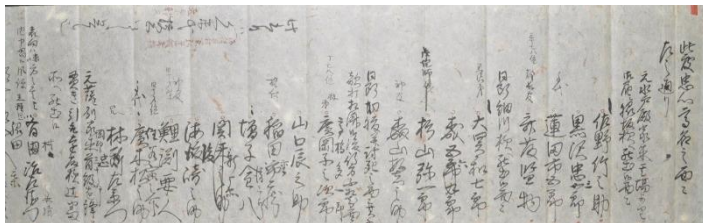
豊橋市図書館の母体であり、“近代的図書館のさきがけ”として注目されている羽田八幡宮文庫。その設立者の一人で、同宮神主の羽田野敬雄（1798～1882）に関する史料（古文書等）が図書館に寄附されました。今回、市内の個人から、「遺品整理の途中で資料が見つかった」と相談を受け、概要調査を実施しました。概要調査を終え、史料をご寄附いただきましたので発表します。あわせて中央図書館で速報展示を開催します。

| | |
|-----|---|
| 史料名 | 羽田野家文書（市内の個人旧蔵） |
| 数量 | 古文書、掛け軸など計 176 点 |
| 内容 | ①江戸時代の羽田村の古文書、②羽田野敬雄宛ての書簡（幕末）、③羽田野敬雄の掛け軸（書や和歌、漢詩など） |

◆速報展示

| | |
|------|-----------------------|
| 開催日 | 6/10（土）～6/25（日） |
| 会場 | 豊橋市中央図書館 1階 陶壁面前展示ケース |
| 展示資料 | 寄附された古文書のうち5点、及び解説パネル |

ポイント1 「桜田門外の変」をはじめ、幕末の重大事件について記した書簡等が多数
 羽田野敬雄宛てに出された書簡のなかには、桜田門外の変や禁門の変など幕末の重大事件に関する情報が書かれています。特に桜田門外の変については、事件発生から襲撃者の特定、怪我人の様子や逃亡経路、捕縛時の状況などが複数回に分けてもたらされました。桜田門外の変の情報が、遠く離れた三河の人々の間でも共有されていたことが分かる貴重な史料です。

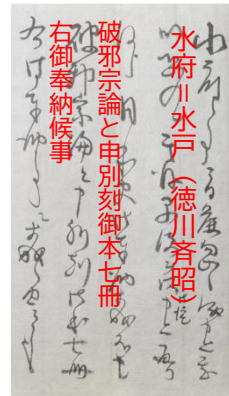
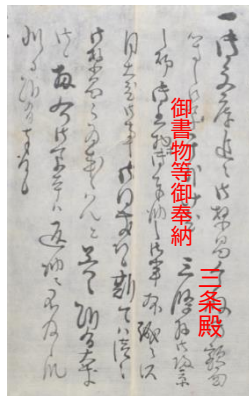


羽田野家文書「此度忠臣功名之面々左之通（桜田門外の変関係者氏名書き上げ）」

※幕末の重大事件等に関する羽田野敬雄宛ての書簡 全 62 点

ポイント2 羽田八幡宮文庫の書籍奉納を国学者平田錬胤があっせんしていたことを示す書簡を発見

羽田八幡宮文庫は、地元吉田の町人をはじめ、多くの人々が羽田八幡宮に「奉納」する形で蔵書を集めていたことが知られています。今回寄附を受けた資料のなかに、公家の三条実万（明治の元勳三条実美の父）と水戸藩の徳川斉昭（徳川慶喜の父）からの書籍奉納を、敬雄と交流があった平田錬胤（幕末の国学者たちのリーダー）があっせんしていたことを示す書簡が発見されました。



今回の書簡発見により、敬雄が国学者のネットワークを駆使して著名人へも書籍奉納を呼びかけていたこと。国学者たちも敬雄の活動に賛同し、著名人への書籍奉納があっせんしていたことが裏付けられました。

【参考1】 三条実万と徳川齊昭が羽田八幡宮文庫に奉納した本



三條実万が奉納した「御注孝経」(当館蔵)



徳川齊昭が奉納した「破邪集」(当館蔵)

【参考2】 羽田八幡宮神主 羽田野敬雄と羽田八幡宮文庫

羽田野敬雄は、東三河でいち早く当時流行していた平田国学の門人となり、多くの人々を平田国学に入門させ、三河に国学を媒介とした文化ネットワークをつくりあげた文化人でもあります。羽田八幡宮文庫に多くの本を集めるとともに、自らも日記や随筆という形で幕末の東三河の様子を書き残しました。

「羽田八幡宮文庫」は、嘉永元年（1848）に羽田野敬雄や吉田宿の町人たちが中心となって設立された文庫（図書館）です。約1万点を数えた蔵書は、明治の終わりに一度蔵書は散逸しますが、同宮神主大木智治が私財を投じ約9割を買い戻します。これを市が買い取り、明治45年の豊橋市立図書館（当時の名称）創立につながりました。

【問合せ】 中央図書館 副館長 岩瀬彰利 ☎31-3131